

『今日は、忍野八海の話をするようになっておったな。先日、興味深い質問を受けたんじゃよ。「いつから、忍野八海という名前になったのですか？」とな。大我講が寛永寺に認められた時の書状には、「富士山根元八湖」または、「富士山根元八海」と記載してあったことを覚えておるかのう。』
『確かにそうでまっすん。いつから、「忍野八海」という名前になったでまっすん。』
『歴史というのは、時系列をたどることが大切なんじゃよ。そうすることによって、どちらが先であるか見えてくるんじゃ。富士山のご神体は「木花咲耶姫命」じゃが、時代をさかのぼると、「木花咲耶姫命」と言われるようになったのは江戸時代からなんじゃ。平安時代には、女神像やかぐや姫と言われた時代があったんじゃ。時代をさかのぼるとどちらが先の名前か見えてくるじゃろ。』
『そう言われるとそうでまっすん。昔の名前を言われると分からなくなってしまうでまっすん。忍野八海については、昭和9年天然記念物に指定された時の表記からだったと思うでまっすん。』
『そうじゃな。けれども、なぜ「忍野八海」という名前になったのか？と質問されても、今となっては憶測の域を超えないんじゃよ。大我講が衰退し、天然記念物に指定された忍野八海が有名になったのは、自然なことだと思うんじゃよ。しかし、やっかいなことがあってな、「根元八湖」と「根元八海」についてどちらの表記が正しいのか？と聞かれても、書状にはどちらの表記もあるんじゃよ。結論から言うと、どちらも正しいんじゃ。利便性を図ったかもしれん。書状を書いた人が、間違ってしまったのかもしれん。どちらが、正しいのかという議論よりも、表記を統一することが大切だと思うんじゃ。しかし、このような疑問が出るということは、忍野八海に興味関心を持ってきているという証拠じゃから、わしはありがたいと思っておるぞ。』

『質問と言え、池の名前について、「菖蒲池」を「しょうぶいけ」というのか、「あやめいけ」というのか、「底抜池」を「そこぬけいけ」また、「そこなしいけ」と言うのか？大我講時代には、「鏡池」は「コノシロ池」と言われていたこのことについては、どうなっているでまっすん？』

『富士山世界文化遺産として登録するには、イコモスに資料が提出されているんじゃ。現在は、その資料に従って説明する必要があると思うんじゃ。けれども、昔のことを研究する必要もあると思うんじゃ。それを、専門機関によって検証してもらい、資料に反映させることができると、忍野八海の歴史はさらに深くなっていくと思うぞ。』

『なるほどでまっすん。次回は、どのような話をしてくれるでまっすん。』
『次回は、富士講と大我講の違いについて話をしようと思っておるぞ。以前も話したが、亀岩八大竜王や北斗信仰についても話ができるといいんじゃがな。』
『楽しみでまっすん。』



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは案内責任者)



クニマッス

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

〇癖 でまっすん..